

ゴミをへらす

じゅんがんだしゃかい
循環型社会

このページではゴミをへらし、限りある資源をくり返
し利用する循環型社会のすがたと、その社会をつくる
ために商社が取り組んでいる活動を学びます。

じゅんがんだしゃかい
循環型社会を歩く



商社の取り組み 循環型社会を実現(じつげん)するために

○ ペットボトルのリサイクル

日本で年間に約60万トン※も生産され、私たちのくらしにかかせないペットボトル。日本のペットボトルリサイクル率は外国とくらべても高く、再度ペットボトルにリサイクルされたり、さまざまな物に生まれ変わったりしています。商社では、使用済みペットボトルを小さな破片(はへん)にして再生用の原料をつくる会社を設立(せつりつ)し、その原料を利用したさまざまな製品の開発・販売を行うなど、ペットボトルのリサイクルに取り組んでいます。



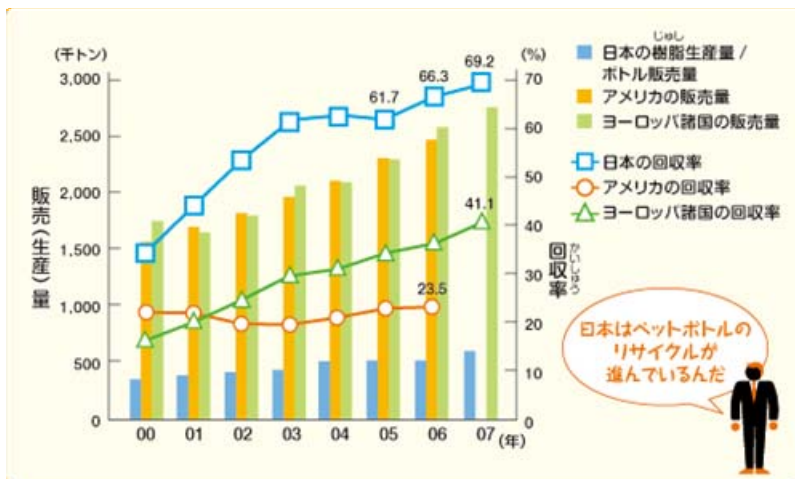
※出典:PETボトルリサイクル推進協議会

日本はペットボトルリサイクルの優等生(ゆうとうせい)

日本における2007年のペットボトルの回収率(かいしゅうりつ)は69.2%※。新たなペットボトルとして再生されるほか、衣類(いるい)、フロアマット、ゴミ袋、ボールペンなど、さまざまな物に生まれ変わります。しかし、日本以上に多くのペットボトルを使用するアメリカでの回収率は23.5%※、一部のヨーロッパ諸国(しよこく)の平均でも41.1%※しか回収されていません。日本はペットボトルリサイクルの優等生(ゆうとうせい)なのです。

※出典:PETボトルリサイクル推進協議会

■ 日米欧のペットボトルリサイクル状況(じょうきょう)



(クリックで大きくなります)

※出典:PETボトルリサイクル推進協議会

ペットボトルはワイシャツのなかま

ペットボトルの原料は、ワイシャツなどに使われている[ポリエステル](#)の一種です。[ポリエステル](#)の樹脂(じゆし)を糸にしてつくられるのがワイシャツで、この樹脂をふくらませたものがペットボトルになります。ペットボトルの容器(ようき)は軽くて[リサイクル](#)できる便利さから生産量が増え、1997年の約20万トンから、2007年の約60万トンへと10年間で3倍に伸び※、清涼飲料水(せいりょういんりょうすい)の約60%※に使用されています。

※出典:PETボトルリサイクル推進協議会

商社が行っている「ペットボトルのリサイクル」

商社は、使用済みペットボトルはもちろん、使用済みのフィルムくずや糸などからペットボトルと同じ原料である[ポリエステル](#)を再生し、高機能(こうきのう)なレインウェアやスキー・アウトドアジャケットに加工し、世界中で販売しています。そのほか、再生用の原料となる、ペットボトルをくだいて小さな破片(はへん)にした[ペットフレーク](#)をつくる会社を設立(せつりつ)。その[ペットフレーク](#)を使用したメーターボックスを販売するなど、さまざまな[リサイクル](#)製品をつくり出しています。世界でも高い回収率(かいしゅうりつ)を実現(じつげん)している日本のペットボトルの[リサイクル](#)に、商社も取り組んでいます。



ペットボトル、フィルムくずなどからつくられたアウトドアジャケット



ペットボトルをくだいた[ペットフレーク](#)

▲ページの先頭へ